

農政の動き 12月6日～12月11日

RCEP 大枠一致できず交渉停滞の可能性

◇

日本や中国、東南アジア諸国連合（ASEAN）などが進める東アジア地域包括的経済連携（RCEP）の第6回交渉会合は、5日終了した。関税を撤廃する品目の割合を示す貿易自由化率の目標など、協議の前提となる大枠や進め方などで一致できなかった。今後交渉が停滞する可能性が一段と高まった。記者会見した外務省の伊藤直樹審議官は「多様な国があるため、各国の立場（の違い）が埋まらなかった。次回に合意できるよう準備を進める」と話した。会合では来年末までの交渉妥結の目標を維持することで一致。次回会合を来年2月にタイの首都バンコクで開くほか、交渉を加速するため、春と秋に閣僚会合を開くことを決めた。【グレーターノイダ（インド北部）2014年12月6日共同】

◇

日本畜産物輸出促進協議会が発足

◇

国産畜産物の輸出拡大を図るため、日本畜産物輸出促進協議会が発足した。生産者団体や食肉・乳業関係団体、都道府県など43団体が参加。牛肉、豚肉、乳製品など品目ごとの部会を設置し、国産畜産物の一体的な輸出戦略の検討や輸出情報の収集・提供、海外での輸出促進活動などをオールジャパンで展開する。（8日）

◇

14年産春植えバレイショ収量 前年産比2%増

◇

農林水産省は、2014年産春植えバレイショの収穫量は、前年産比2%増の49万2700トと発表した。作付面積は2%減の2万4千畝となったが、10畝当たり収量は3%増となった。（9日）

◇

TPP反対の米市民 USTR前で抗議活動

◇

日米などが交渉中の環太平洋連携協定（TPP）に反対する米市民団体らが8日、ワシントン市内の米通商代表部（USTR）前で抗議活動をし「交渉内容を公表せよ」などと訴えた。7日からワシントンで始まったTPPの交渉会合に合わせた活動には、労働組合や環境団体など10余りの団体から200人以上が参加した。「自由貿易ではなく公正な貿易を」と記した横断幕などを掲げながら、USTRが入った建物の周辺を行進した。（ワシントン9日共同）

◇

エルニーニョ現象 冬の間は発生続く可能性

◇

気象庁は、南米ペルー沖の監視海域の海面水温が基準値より高くなるエルニーニョ現象が「発生しているとみられる」と発表した。すでに夏から発生していたと考えられ、「冬の間は発生が続く可能性が高い」とした。冬に同現象が発生すると暖冬になる傾向がある。（10日）

◇

徳島県三好市などで大雪 農業施設にも被害

◇

北日本から西日本の日本海側を中心に、5日夜から6日かけて雪となり、徳島県三好市などでは一部集落が孤立するなどの被害が発生。県によると農業関係被害は、ビニールハウスの倒壊が三好市など1市2町で計36カ所などとなっている。(11日)

◇

トウモロコシ 世界の期末在庫率は1.7ポイント増

◇

農林水産省は、米農務省による2014/15年度の世界の穀物需給月間報告の概要を公表した。トウモロコシの生産量は米国の単収増などで史上最高となり、消費量を上回る。世界の期末在庫率は前年度比1.7ポイント増の19.8%と予測した。小麦は生産量が消費量を上回り、期末在庫率は1.0増の27.4%と見込んだ。(11日)